

大腸癌研究会プロジェクト
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成
研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

第 18 回会議議事録

2026 年 7 月 2 日

広島コンベンションホール メインホール A

■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一 (欠席)
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、秋吉高志 (欠席)、池松弘朗 (欠席)、石黒めぐみ (欠席)、石田和之、石原聡一郎 (代理：永井雄三)、市川一仁、浦岡俊夫、大沼忍、岡志郎 (欠席)、奥山隆 (欠席)、真崎純一、金光幸秀 (代理：塚本俊輔)、河内洋 (欠席)、小嶋基寛、小林宏寿 (代理：南角哲俊)、小森康司、斎藤彰一、斎藤裕輔 (欠席)、斎藤豊、杉本起一 (代理：村井勇太)、島崎英幸 (欠席)、下田忠和 (欠席)、菅井有 (欠席)、関根茂樹、高松学、立石陽子、田中信治、田丸弓弦、富樫一智、堀川知紀、永田信二、中村好宏 (欠席)、二村聡、橋元幸星 (欠席)、藤盛孝博 (欠席)、堀田欣一、松下弘雄 (欠席)、松田健司、南真平、山田一隆、山田真善、山野泰穂 (欠席)、吉田直久、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 40 名

■会議内容

1. 研究 1 (Nomogram study)

(1) 進捗状況について

事務局より、研究 2 とともに研究期間の 2 年間の延長および委員の交代を反映したプロトコル改訂について、大腸癌研究会の倫理委員会で承認がされたことを報告した。今後、防衛医大での倫理承認を経て各施設での倫理申請を依頼する旨をアナウンスした。

事務局より、副次的解析について、これまでに 5 編が公表され、3 編が投稿中、2 編が再投稿準備中、4 編が投稿準備中であることを報告した。また、現在解析中の副次的解析 4 件について進捗状況を確認し、1 件が辞退となった。

富樫委員より、新たに Digestion 誌に accept された『Identifying Post-Surgical Recurrence Subtype of T1-Stage Colorectal Cancer by Machine Learning』の内容が紹介された。

(2) LN 転移リスクが皆無にもかかわらず転移・再発を来した症例について

事務局より、前回の会議で lp 症例の再発例の内、ガイドラインの 4 つの LN 転移リスク因子が全て陰性の症例を対象として病理所見の再評価を行う予定としていたが、SM浸潤度が過少評価となっている可能性が懸念されるため、肉眼型に関わらずリス

ク因子が皆無の症例のうち LN 転移や再発を来した症例（15 例）を対象とした新たな研究計画を作成して、中央判定にて病理所見を確認することを提案し、特に異論なく了承された。

2. 研究 2（F1 study）

（1）進捗状況について

事務局より、本体研究の解析の結果、5 名のエキスパートの病理医によって行われた評価では、T1a 症例の LN 転移率が極めて少なく、診断の一致度が高かった。これを受けて、本研究の病理委員が行った測定要領を SM 浸潤度の評価法として提言することとなり、病理アトラスの作成が開始されたことを報告した。上野委員長より SM 浸潤度判定法の病理アトラス案が紹介された。

（2）副次的解析について

吉田委員から、高分化腺癌のみからなる腺癌（PWDA）に関する解析の進捗状況が報告された。

3. その他

特になし。